

研究課題名	栄養・食事に関する臨床知識の構造化
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 特殊歯科・口腔外科 氏名 道脇幸博
研究期間	平成 26年10月 ～ 平成28年3月
研究の意義・目的	<p>高齢社会の進行とともに、入院患者は高齢化し、嚥下障害や低栄養の患者、病態別栄養管理を必要とする患者数が増加しています。これらの患者では、主疾患の治療後にも合併症を併発することが多く、栄養・食事の管理が重要課題となっています。</p> <p>関連する主要因は、栄養の摂取経路、嚥下障害の有無、代替栄養の必要性ですが、臨床の現場では、栄養剤の種類、総エネルギー量、必要栄養素量、水分量、病態別栄養、食種、食物アレルギー、嗜好などの多数の細かな因子を考慮する必要があり、これらの知識の構造化は十分ではありません。</p> <p>臨床知識の構造化手法として、患者状態適応型パス（以下、PCAPS）があり、がん治療などに適用されつつあります。</p> <p>本研究では、さまざまな病態の入院患者の栄養と食事について臨床データを収集・解析して、PCAPSの手法を使って臨床知識の構造化を行います。その成果は、栄養・食事の標準化とともに、窒息や誤嚥などのリスクの低減と栄養・食事ケアの効率化、均霑化につながると考えられます。</p>
研究の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入院中の成人患者さんを毎週火曜日に無作為に選びます。</li> <li>2) 1) 患者さんが退院するまでの間の栄養・食事に関するデータを継続的に収集します。収集項目は、年齢、性別、身長、体重、主疾患、嚥下障害の有無、摂取経路、摂取栄養・食事量、代替栄養、血液データ（TP, ALB等）、ADL、入院中の併発症、転帰などです。</li> <li>3) 患者状態適応型パス（PCAPS）の栄養・食事版にしたがって解析します。</li> <li>4) その後、PCAPS栄養・食事版を検証し、改善していきます。</li> </ol>
個人情報の取扱い	<p>臨床データは当院規定に従って扱います。</p> <p>研究結果は学会等で公表しますが、公表されるのは個人データではなく、個人が特定されるリスクは低く、また個人を特定できる情報を公表することはありません。</p>
お問い合わせ	<p>当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 特殊歯科・口腔外科 氏名 道脇幸博 TEL : 0422-32-3111 (代表) FAX : 0422-32-3525</p>